

当初設計

2026年度

福山市金江町地内

夫婦岩池災害復旧工事 実施設計書

工 事 概 要	当初設計	
	復旧延長 L=11.0m 土工 一式 法面工 A=360m ² 舗装工 A=60m ² 仮設工 一式	

特記仕様書

第1章 総則

第1節 適用

- ・本特記仕様書は、夫婦岩池災害復旧工事に適用する。
- ・本特記仕様書に記載のない事項については、次によるものとする。
- ・令和8年8月 広島県 土木工事共通仕様書、「設計図書（別冊図面、仕様書）」、「福山市建設工事執行規則」、「福山市工事検査技術基準」
- ・その他関連規格類
- ・小黑板情報電子化を実施しない工事写真について、監督員の承諾を得る必要はないものとする。

第2節 工程表の提出について

- ・契約締結後14日以内に設計図書に基づいて、工程表を作成し、発注者に提出すること。工期の変更契約についても同様とする。

第3節 地元への周知

- ・受注者は、監督員と協議し、地先住民、町内会長、土木常設員に工事着手及び工事完了の報告を行うこと。また、工事着手に先立ち地先住民及び貸借人には具体的な施工内容、方法、時期等の説明を行い、承諾を得ること。
- ・受注者は、工事着手の際に、あらかじめ沿線地権者に施工内容等についての説明を行い、承諾を得ること。

第4節 工事に着手すべき期日について

- ・受注者は、工事開始日以降30日以内に工事着手しなければならない。

第5節 法定外労災保険の付保について

- ・本工事は、法定外の労災保険契約の保険料を見込んでいる。

第6節 再生資源利用計画の現場掲示

受注者は、再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画を工事現場の見やすい場所に掲示（デジタルサイネージによる掲示も可）し、公衆の閲覧に供するとともに、インターネットの利用により公表するよう努めるものとする。

第2章 材料

第1節 大型土のう

- ・次のいずれかの要件に該当する場合は、袋体が破損する恐れがあるので「耐候性大型土のう積層工法」設計・施工マニュアル第2回改訂版（令和5年5月）で要求される性能（19項目）を全て満たした製品を使用すること。
 - (1) 要領1m3当たりの中詰材重量が10kNを超える場合（20kN未満）
 - (2) 2か月を超えて屋外へ使用する場合（3年未満）

第3章 施工条件

第1節 検査期間

- ・本工事の工期は、工事検査期間として、14日間を見込んでいる。

第2節 指定仮設

- ・内容：仮設道路
設計図書に定める方法により難しい場合は、監督員と受注者が協議するものとする。

第3節 建設副産物について

(1) 工事受注者は、工事着手前に、次の書類を本工事の監督員に提出すること。なお、建設発生土については、処分先の現地確認写真を提出すること。

1 建設廃棄物処理計画書

- ・廃棄物処理業者（収集及び運搬）の許可証の写し（許可車両の自動車登録番号一覧及び自動車検査証の写しを含む）
- ・廃棄物処理業者（中間処理・最終処分）の許可証の写し（再生資源化施設にあっては、それを示す書類を含む）
- ・運搬ルート、処分場の位置、事業の範囲、処理能力及び処理方法を明示したもの
- ・各処分場の現地確認写真
- ・建設工事の受注者と処理業者（収集、運搬、中間処理・最終処分・再資源化施設）との二者の業務委託契約書の写し

2 再生資源利用計画書

3 再生資源利用促進計画書

(2) 工事受注者は、「再生資源利用計画書」、「再生資源利用促進計画書」及び「建設廃棄物処理計画書」に従い建設廃棄物及び特定建設資材廃棄物が適正に処理されたことを確認し、工事完成時に次の書類を監督員に提出すること。なお、建設発生土については、処分先への搬入状況の写真を添付すること。

1 再生資源利用実施書

2 再生資源利用促進実施書

3 建設廃棄物処理実施書

- ・マニフェスト（産業廃棄物管理票）の写し及び再生資源化に係るものについては受入伝票の写し（マニフェストは原則として環境省が示す全国統一のマニフェストを使用する。）
- ・収集及び運搬の写真並びに中間処理場及び最終処分場（直接最終処分の場合のみ）への搬入状況の写真

第4節 建設発生土（搬出）（建設発生土リサイクルプラント、建設発生土受入地又は建設発生土受入地（一時たい積））

・当該工事により発生する建設発生土は、公の関与する埋立地、建設発生土処分先一覧表に掲載されている建設発生土リサイクルプラント、建設発生土受入地又は建設発生土受入地（一時たい積）のいずれかに搬出するものとする。また、搬出先として、運搬費と受入費（平日の受入費用）の合計が最も経済的になる建設発生土リサイクルプラント、建設発生土受入地又は建設発生土受入地（一時たい積）を見込んでいる。したがって、正当な理由がある場合を除き残土処分に要する費用（単価）は変更しない。なお、工事発注後に明らかになったやむを得ない事情により、建設発生土処分先一覧表に掲載されている建設発生土リサイクルプラント、建設発生土受入地又は建設発生土受入地（一時たい積）への搬出が困難となった場合は、監督員と受注者が協議するものとする。

・搬出先においては、処分状況が確認できるよう、写真撮影を行うとともに、数量等が確認できるように計量伝票等を監督員に提出すること。

・実施伝票は原本を提出すること。

第5節 特定建設資材廃棄物（アスファルト塊、コンクリート塊等）

・建設リサイクル法対象工事（請負代金額500万円以上）の場合、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」を遵守し適正に処理すること。また、法第12条第2項に基づき、法第10条第1号から第5号までに掲げる事項について下請負人に告知する場合は、告知書の写しを監督員に提出すること。

・特定建設資材廃棄物は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」（以下「廃棄物処理法」という）を遵守し、適正に処理しなければならない。

・特定建設資材廃棄物は、広島県（環境局）及び保健所設置政令市（広島市、呉市、福山市）が、廃棄物処理法に基づき許可した適正な施設へ搬出し再資源化しなければならない。

・再資源化に要する費用（運搬費を含む処分費）は、広島県（環境局）及び保健所設置政令市（広島市、呉市、福山市）が廃棄物処理法に基づき許可した適正な施設のうち受入条件が合うものの中から、運搬費と受入費の合計が最も経済的になるものを見込んでいる。従って、正当な理由がある場合を除き再資源化に要する費用（単価）は変更しない。なお、工事発注後に明らかになったやむを得ない事情により、施設への受入が困難な場合は監督員と受注者が協議するものとする。

・搬出先においては、処分状況が確認できるよう、写真撮影を行うとともに、数量等が確認できるように計量伝票等を監督員に提出すること。

・マニフェスト（産業廃棄物管理票）の写し及び再生資源化に係るものについては受入伝票の写し（マニフェストは原則として環境省が示す全国統一のマニフェストを使用する。）

第6節 排出ガス対策型建設機械の使用促進

・令和7年8月広島県土木工事共通仕様書で使用を義務づけている排出ガス対策型建設機械においては、第三次基準以上の建設機械の使用に努めること。なお、使用する排出ガス対策型建設機械について、基準値による設計変更は行わない。

第4章 その他

第1節 その他項目

・本特記仕様書及び設計図書に明示していない事項または、その内容に疑義が生じた場合は、監督員の指示を受けること。

ため池整備工事共通仕様書

(適用)

1-1 本仕様書は、高さ(堤高)15m未満のフィルタイプのため池(調整池を含む)改修の堤体工、地盤改良工、洪水吐工、取水施設工、浚渫工その他これらに類する工種について適用するものとする。

1-2 設計図書において特に定めのない事項については、次の基準類によらなければならない。なお、基準類と設計図書に相違がある場合は、原則として設計図書の規定に従うものとし、この仕様書に定めのない事項または疑義がある場合は、監督員に確認を求めなければならない。

- | | |
|----------------------|-------------|
| 1. 土地改良事業設計指針「ため池整備」 | 農林水産省農村振興局 |
| 2. 土木工事等共通仕様書 | 農林水産省構造改善局 |
| 3. 広島県農林土木工事共通仕様書 | 広島県農林水産局 |
| 4. 広島県土木工事共通仕様書 | 広島県建設技術センター |
| 5. 農林土木工事施工管理基準 | 広島県農林水産局 |

(一般事項)

2-1 打合せ

この仕様書において「打合せを行う」とされた場合に、監督員は状況に応じ、受注者、現場代理人、監理技術者または主任技術者に対し指示、承諾または助言を行うものとし、指示及び承諾は文書(打合せ簿を含む)によって行うものとする。助言は口頭でも出来るものとする。

2-2 測量

1. 事前測量を行い監督員に結果を提出し、承諾を受けなければならない。
2. 基準点及び水準点は常に保全に努め、施工の支障となる基準点及び水準点は、監督員と協議の上移設し、その管理を適切に行わなければならない。
3. 監督員が別に指示する測量については、これを速やかに実施し、その成果を提出しなければならない。

2-3 段階確認

受注者は、工事完了後外面から明視できない箇所、または重要な工事部分及び、監督員が必要と認めて指示する作業段階ごとに、その施工位置、施工状況等について、監督員の確認を受けなければならない。

2-4 履行報告書

受注者は、月末締めで翌月7日までに履行報告書を監督員に提出しなければならない。

2-5 定義

1. 「鋼土、刃金土」とは、堤体盛土のうち、遮水を目的とした部分をいう。特に「刃金土」

という場合は、遮水性部分または工法を示し、「鋼土」とは遮水性部分に用いる材料を示す場合もある。

2. 「ランダム材」とは、堤体盛土のうち遮水性ゾーン（鋼土、刃金土）以外の部分をいう。
3. 「ドレーン」とは、堤体からの浸透水による細粒材料の流失を防止し、かつ浸透水を堤体外へ安全に排出流下させることにより、堤体の浸透破壊を防止するものをいう。
4. 「コンタクトクレイ」とは、土質材料と基礎岩盤面あるいはコンクリート構造物面が接する箇所において密着性をより高めるために貼付ける粘土質材料をいう。
5. 「前法（表法）」とは、堤体上流側の法面をいう。
6. 「後法（裏法）」とは、堤体下流側の法面をいう。
7. 「取水施設」とは、底樋等の土木構造物と取水バルブ（ゲート）等の機械設備を含めたものの総称である。
8. 「取水設備」とは、取水施設における取水バルブ（ゲート）等の機械設備を示す。
9. 「樋管」とは、底樋、斜樋を含めたものの総称である。
10. 「腰ブロック」とは、ドレーンを保護し、かつ浸透水を堤体外に速やかに排水流下させる積ブロックをいう。
11. 「土砂吐」とは、ため池の最も低位置に設けられた池内に堆積する土砂等の排除施設をいう。

2-6 使用資材

1. 設計図及び仕様書に特定の製品名及び製造業者名を表示していない場合は、「日本工業規格（JIS 製品）、団法人日本水道協会（JWWA 製品）」または監督員が認める同等以上の製品であることとする。
2. 受注者は、本工事に使用する主要な資材について、名称・規格・品質・各種試験成績書及び購入先が確認できる資料を提出し、監督員の承諾を受けなければならない。

2-7 コンクリート工

この工事に使用するコンクリートは、「広島県土木工事共通仕様書」によるものとし、セメントは高炉B種とし、使用区分は次表のとおりとする。

表 示	名 称	設計基準強度	粗骨材最大寸法	スランプ	水セメント比
21-20-8	鉄筋構造物	$\sigma_{ck}=21\text{N/mm}^2$	20mm	8cm	55%以下
18-40-8	無筋構造物	$\sigma_{ck}=18\text{N/mm}^2$	40mm	8cm	60%以下
18-40-8	均しコンクリート	$\sigma_{ck}=18\text{N/mm}^2$	40mm	8cm	60%以下

2-8 施工体制立入点検について

1. 発注者は、受注者が工事の施工に当たり、遵守しなければならない法令上の義務が適正に履行されているかの立入調査を行うことができる。

2. 受注者は、発注者の指名する者が、工事現場、現場事務所または営業所に立入調査を実施する場合は、これを受け入れなければならない。

<施工一般>

(堤体工)

3-1 雑物除去工

1. 受注者は、掘削に当たり、堤敷内の腐植土、草木根等の有機物及び基礎として不適当なもの並びに池水の浸透を誘導する雑物（風化土、転石、泥土等）は完全に除去しなければならない。なお、現地状況により完全に除去できない場合には、監督員と協議しなければならない。
2. 受注者は、設計図書に基づき工事現場内にある地表物及び物件を処理しなければならない。また、設計図書に示されていない地表物等については、監督員と協議しなければならない。

3-2 土取場

1. 堤体盛土材料の採取に当っては、指定する土取場について採取計画を施工計画書に記載し、監督職員の承諾を得なければならない。
2. 受注者は、伐開または採土前に土取場で監督職員、所有者立会のもとに範囲等を確認し、後でトラブルのないようにしなければならない。また、数量の確認ができるよう着工前後の測量、写真等必要書類を整理しなければならない。

3-3 表土剥ぎ取り

1. 受注者は、改修する堤体表土の剥ぎ取りに当たり、原則として全面にわたり同時に施工するものとする。
なお、やむを得ず盛土の進捗に応じて表土を剥ぎ取る場合には、表土と盛土が混合しないようにしなければならない。
2. 受注者は、表土の剥ぎ取りに当たり、設計図書に定めのない限り 30cm 以上とし、剥ぎ取り面に樹木の根等が残る場合、これを除去しなければならない。
なお、現地状況により除去できない場合には、監督員と協議しなければならない。

3-4 掘削工

1. 受注者は、掘削に当たり、計画基礎地盤標高に達する前に、ボーリング結果と現地の照合を行う等、地盤の確認を行い、地盤改良の可否を検討するものとする。地盤改良等が必要となった場合には、監督員と協議するものとする。
2. 受注者は、浸透水をその原因により堤防の内外に区分して、誘導処理しなければならない。
3. 受注者は、床掘及び袖掘を設計図書に示す深さに掘り下げ、掘削完了後は監督員の検査を受けなければならない。
ただし、所定の深さ以前に良質堅固な不透水層に遭遇した場合は、監督員の指示を受けなければならない。
4. 受注者は、床掘及び袖掘には原則として火薬使用を避け、基礎の弛緩を防止し、やむを

得ずこれを使用する必要があるときは、監督員の指示を受けなければならない。

5. 受注者は、漏水を絶無にするため、基礎地盤の「凹凸」を取除いてよく清掃し、基礎地盤と築堤土との接触を密にしなければならない。

6. 受注者は、掘削に当たり必要な断面を確保するとともに、極力過掘りを避けるものとする。過掘りとなった場合、地山と同等若しくは良質な材料を用いて埋戻すものとするが、その処置について監督員の指示によるものとし、これに要する経費は受注者の負担により行わなければならない。

7. 受注者は、掘削法面の保護について十分工程計画を検討し、風化、変質が生じないようにしなければならない。

3-5 掘削土の流用工

1. 受注者は、掘削土を築堤材料へ流用する場合、設計図書によるものとする。

2. 受注者は、掘削に先立ち掘削土の盛立材料への流用の適否を検討するために掘削箇所の試験を行うとともに土質試験を実施し、その試験結果を監督員に提出するものとする。なお、試験項目については監督員の指示によらなければならない。

3-6 掘削土の搬出工

1. 受注者は、泥土等軟弱な土砂を現場外へ搬出する場合、建設汚泥再生利用技術基準(案)の第4種建設発生土相当以上(コーン指数(q_c)が 200kN/m^2 以上若しくは一軸圧縮強度(q_u)が 50kN/m^2 以上)に改良しなければならない。

なお、第4種建設発生土相当以下の泥土等軟弱な土砂を本工事現場外へ搬出する必要がある場合は、監督員と協議するものとする。

2. 受注者は、泥土を他事業、他工事で再利用する場合、事前に泥土に含まれる有害物質に関する試験を行い、「水質汚濁防止法に基づく排水基準(一律排水基準)」を満たしていることを確認するものとする。なお、基準を満たしていない場合は監督員と協議するものとする。

3-7 堤体盛立工

1. 受注者は、盛立材料の試験を設計図書及び監督員の指示により行わなければならない。

2. 受注者は、刃金土には特に水密性の大きい粘質土を選び、**透水係数 $k = 1.0 \times 10^{-5} \sim 5.0 \times 10^{-5} \text{cm/sec}$** の土を用いなければならない。

(JIS A 1214の方法による、最大乾燥密度の95%以上の時)

3. 受注者は、ランダム材には透水性があり重量の大きい砂質土で、**透水係数 $k = 1.0 \times 10^{-3} \sim 5.0 \times 10^{-5} \text{cm/sec}$** の土を用いなければならない。

(JIS A 1214の方法による、最大乾燥密度の95%以上の時)

4. 受注者は、築堤用土の採取及び搬入について、1日計画盛土量程度とし、降雨、降雪その他の事由により盛土を中断し、搬入土が余る場合、覆い等を施して過湿あるいは乾燥土とならないよう処置しなければならない。

5. 受注者は、用土運搬の方法について転圧の障害となる軌道、ポスト等は盛土の現場に設けてはならない。
また、自走式運搬機械で行なう場合も、その進入路等の軌跡が集中して過転圧を起さないように、取付部の拡張、運搬方法について考慮しなければならない。
6. 受注者は、築堤用土のまき出し及び転圧に当たり、原則として堤体の縦断方向に施工するものとし、横断方向に層状にならないように注意しなければならない。
ただし、樋管設置のための開削部で作業が困難な場合はこの限りではない。
7. 受注者は、盛土基礎地盤について支持力及び均等性に疑問がある場合には監督員と協議しなければならない。
8. 受注者は、まき出した土を、その日のうちに締固めなければならない。
9. 受注者は、床掘部の盛立において、湧水のあるときはこれを排除して十分に締固めなければならない。なお、排除の方法については、監督員と協議しなければならない。
10. 受注者は、地山及び既成盛立との接触面について特に十分に締固めなければならない。
11. 受注者は、盛土作業について最凹部から各層平坦に締固め、設計図書に示す高さまで盛立てるものとする。
12. 受注者は、水平な面を施工する場合、平坦な締固め、排水が良好となるよう施工しなければならない。
13. 受注者は、タイヤローラまたは振動ローラで転圧作業を行うこととする。
14. 受注者は、転圧作業に当たり、ローラの転圧幅は 30cm 以上重複させなければならない。
15. 受注者は、地山または既成盛立との接触面及び地形上ローラの使用が不可能な箇所の転圧に際しては、地山との密着及び既成盛立との均一化を図るよう特に留意し、タンパ、振動ローラ等の小型締固め機械または人力で入念に締固めなければならない。
16. 受注者は、法面部の盛土について、規定以上の寸法の広さまでまき出し、十分締固めを行うものとする。また、はみ出した部分は、盛立完了後に切り取り、法面を仕上げるものとする。
17. 受注者は、冬期の盛立において、盛立面の氷雪または凍土、霜柱は必ず除去して転圧しなければならない。また、含水比あるいは締固め密度が所定の値を満足していない場合、その 1 層を破棄あるいは再締固めしなければならない。
18. 受注者は、盛土の施工中において、用土の不適若しくは転圧の不十分、または受注者の不注意によって湧水あるいは盛立法面の崩壊があった場合、その部分及びこれに関連する部分の盛立について再施工しなければならない。
19. 受注者は、盛立現場の排水を常に十分行い、雨水等が盛立部分に残留しないよう緩勾配をつけて仕上げるものとする。
20. 受注者は、転圧後平滑面が出来た場合、次層との密着を図るため、かき起しをしてから

次のまき出しを行わなければならない。

21. 受注者は、まき出し面が乾燥した場合は散水等により、まき出し材料と同程度の含水比となるよう調整し施工しなければならない。

22. 受注者は、まき出し土中に過大な粒径の岩石、不良土及びその他草木根などがある場合、これを除去しなければならない。

23. 受注者は、盛土作業中に沈下等の有害な現象があった場合、その処理方法について監督員と協議しなければならない。

24. 受注者は、岩盤面に盛立する場合、浮石やオーバーハング部を取除き、十分清掃のうえコンタクトクレイを貼り付けた後施工しなければならない。

また、コンタクトクレイを施工するときは、その厚さ及び施工方法について監督員と協議しなければならない。

25. 受注者は、締固めに当たり、過転圧による品質の低下に十分注意し、適正な盛立管理のもとに施工しなければならない。

26. 受注者は、締固め後、乾燥によるクラックが発生した場合、その処理範囲について監督員と協議し、健全な層まで取除き再施工しなければならない。

27. 受注者は、盛立作業ヤード上で締固め機械を急旋回してはならない。

28. 受注者は、施工中において用土の含水比、締固め試験、透水試験等の施工管理試験を行わなければならない。

29. まき出し厚さ、転圧回数の標準は次のとおりとする。ただし、施工前及び土質変更時には現場盛土試験を行い、転圧状況等の確認を行い、監督員と協議し決定するものとする。

	タイヤローラ (3500m/h)		振動ローラ (1000m/h)		タンパ (550m/h)	
	まき出厚 (m)	転圧回数 (回)	まき出厚 (m)	転圧回数 (回)	まき出厚 (m)	転圧回数 (回)
鋼 土	0.20	10	0.20	8	0.10	8
ランダム	0.30	8	0.30	4	0.20	4

30. 施工管理

① 施工管理は、別紙ため池出来形管理基準（写真撮影）及びため池品質管理基準によるものとし、試験方法、回数、施工管理基準は本仕様書によるものとする。

② 受注者は、土質が変化する時等、監督員の指示により含水比試験を行わなければならない。許容含水比は最適含水比±5%とする。

③ 試験結果が管理基準値に達しない場合は監督員の指示にしたがうものとする。

3-8 コンクリート工

受注者は、構造物の施工に当たり、図面に表示している箇所以外で生コンクリートの施工

打継ぎを行う場合には、塩ビ製止水板を設置し、漏水がないようにするものとする。

3-9 法面保護工

1. 受注者は、設計図書で示された工法で十分転圧し、法面を整形しなければならない。
2. 受注者は、曲線部及び局部で波止ブロックの施工ができない箇所は、強度 $18\text{N}/\text{mm}^2$ 以上のコンクリートで仕上げなければならない。

3-10 裏法フィルター工

受注者は、後法（裏法）フィルターの施工に当たり、1 層の仕上がり厚さが 30cm 以下となるようまき出し、タンパ（60～100kg 級）等により締固めなければならない。

3-11 腰ブロック工

受注者は、腰ブロック水抜孔の施工に当たり、塩化ビニル管（VU ϕ 50mm）を $2 \sim 3 \text{ m}^2$ に 1 箇所程度の割合で設置しなければならない。

3-12 ドレーン工

受注者は、碎石または砂によるドレーンについて、1 層の仕上り厚さが 30cm 以下となるようまき出し、振動ローラまたはタンパ（60～100kg 級）等により締固めなければならない。

（地盤改良工）

4-1 浅層改良工

1. 受注者は、設計図書に示す種類の固化材を使用するものとし、地盤改良の施工方法等を施工計画書に記載し、監督員に提出しなければならない。なお、これ以外の改良方法を行う場合には、監督員と協議しなければならない。
2. 受注者は、工事着手前に室内配合試験を行い、使用する固化材の添加量について監督員の承諾を得なければならない。
3. 受注者は、風による飛散公害と作業員の健康障害等を招かないよう必要な措置を講じるとともに天候に留意し、雨天、強風時及び気温 5°C 以下のときは散布してはならない。また、施工時に異常が発生した場合には、直ちに監督員に報告し、指示を受けるものとする。
4. 受注者は、バックホウ等により所定の深さまで現地土と固化材を混合・攪拌するものとし、混合状態の良否を観察し、目視による色むらがなくなるまで行うものとし、混合むらが生じた場合は、再度混合する。
5. 受注者は、固化材を混合、攪拌し所定の養生期間を経た後、基盤面の仕上げを行うものとする。
6. 受注者は、セメント系固化材を使用する場合、必要に応じて透流水の PH を測定するものとする。なお、測定方法については、監督員の指示を受けるものとする。
7. また、六価クロム溶出試験（及びタンクリーチング試験）を実施し、試験結果（計量証明書）を提出するものとする。試験方法は「セメント及びセメント系固化材を使用した改良

土などの六価クロム溶出試験実施要領」によるものとする。また、土質条件、施工条件等により試験方法、検体数に変更が生じた場合は、監督員と協議するものとし、設計変更の対象とする。

・試験対象工種名及び検体数

地盤改良工 : 配合設計段階 1 検体 (試験方法 1)

(洪水吐工)

5-1 洪水吐工

1. 受注者は、堰体に接する部分の掘削に当たり、発破と過掘りを避けて、基盤を緩めないようにしなければならない。また、洪水吐の越流堰設置箇所部分の掘削は、正確な断面を保持しなければならない。
2. 受注者は、設計図書に掘削土等の流用計画が示されている場合、流用工種との工程調整を図り、所定量を確保しなければならない。
3. 受注者は、特に堰体コンクリートと岩盤の密着について留意し、浮石等を除去、清掃のうえモルタルを敷き均して施工しなければならない。
4. 受注者は、堤体越流部及び放水路の断面形状等について、設計図書によるものとし、表面に生じた空隙にはコンクリート等を充填し、突起部はすべて削り取って平滑に仕上げなければならない。
5. 受注者は、洪水吐周辺の盛土について、土とコンクリートの境界面が水みちとならないように施工しなければならない。
6. 受注者は、設計図書のとおりに床版止めアンカーを正確に取付けなければならない。

(取水施設工)

6-1 取水施設工

1. 受注者は、底樋管巻立コンクリート及び止水壁周辺の盛土について、境界面が水みちとならないよう、特に十分に締固めなければならない。また、締固め機械によって底樋管等に損傷を与えないよう注意して施工しなければならない。
2. 受注者は、底樋管上の盛土の転圧について巻立コンクリートの天端から 60cm までは、重機械によらずにタンパ等で十分に締固めなければならない。
3. 受注者は、取水施設設置のための現況堤体開削部について、盛土材料と旧堤体土とのなじみを良くするため境界面のかき起しや散水を行うものとし、堤体開削部より漏水することのないように施工しなければならない。
4. 受注者は、掘削において、管敷設、接合、基礎工、埋戻し等の作業及び管体の安全を考慮して必要な幅員及び法勾配を確保するものとし、過掘りの発生は極力避けなければならない。継手掘り箇所またはやむを得ず基礎地盤を過掘りした場合、良質な材料を用いて締固め、当初地盤と同等程度に復元しなければならない。

5. 受注者は、設計図書に示すとおり取水施設の継手を設置しなければならない。なお、盛土の圧密沈下等により支障を生じないようにしなければならない。
6. 受注者は、堤体盛土に支障のないよう工程上余裕を持って底樋管を設置するものとする。
7. 受注者は、管路の埋戻し用土に掘削土を流用するとき石礫、有機物等の有害物を含まないようにしなければならない。
8. 受注者は、斜樋管に塩ビ管・ヒューム管等を用いる場合、管体に損傷を与えないよう丁寧に取扱い、継手は水密になるよう接合しなければならない。
9. 受注者は、底樋管と斜樋管の取付部、斜樋管の取水孔部、施工継手等は漏水のないよう施工しなければならない。
10. 受注者は、樋管工事の施工に当たり樋管部巻立コンクリート打設前及び樋管完成時の各段階で監督員の承認を受けなければならない。

6-2 ゲート及びバルブ製作工

1. 受注者は、製作に先立ち、承諾図書を2部（承諾後返却分1部を含む）提出するものとする。
2. 受注者は、完成図書を2部提出するものとする。なお、完成図書等の内容、様式等については監督員と打合せのうえ作成するものとする。
3. 受注者は、製作に使用するすべての材料について、水圧に耐えうる強度を有し、各種形状寸法は正確に承諾図書に適合したものでなければならない。
4. 受注者は、鋳鋼、鋳鉄、砲金等の鋳造品は十分押湯をし、表面平滑であって、鋳房、気泡、その他鋳造上の欠点のないものでなければならない。

6-3 取水ゲート

1. 受注者は、扉体の主横桁は設計最大水圧を均等に受ける位置に配置しなければならない。
2. 受注者は、シートフレームの設計、製作に当たりコンクリートにより弾性支持されるレールと考えられるので、扉体に作用する水圧を有効かつ安全にコンクリートへ分布伝達できるようにしなければならない。
3. 受注者は、水密部となる扉体及びシートフレームを平削加工したうえ、共摺合せを十分に行い完全なる水密を保たなければならない。
4. 受注者は、スルースバルブの巻上機について巻上オネジ及びメネジがその荷重に耐えられる構造としなければならない。
5. 受注者は、オネジの軸受部について開閉が容易に行えるようにベアリングを装置しなければならない。
6. 受注者は、巻上機に開閉度を表示する目盛板とハンドルの回転方向による開閉別を区分できる表示板を取付けなければならない。

(土砂吐ゲート)

6-4 土砂吐ゲート

1. 受注者は、扉体の主桁は設計最大深を均等に受ける位置に配置し、その水圧に対して十分な強度を有する構造としなければならない。
2. 受注者は、シートフレームの設計、製作に当たり、コンクリートにより弾性支持されるレールと考えられるので、扉体に作用する水圧を有効かつ安全に側壁コンクリートへ分布伝達できるようにしなければならない。
3. 受注者は、水密部となる扉体及びシートフレームを平削加工したうえ、共摺合せを十分に行い完全なる水密を保たなければならない。
4. 受注者は、開閉が円滑に行える構造としなければならない。

(仮設備工)

7-1 道路工

1. 工事用道路は工程計画、安全性を考慮し施工しなければならない。
2. 工事用道路については、施工計画書に記載しなければならない。

7-2 水替工

1. 仮締切、仮廻し水路は、設計図書によるほか、流水等に対し安全な構造とし適切な維持管理をしなければならない。
2. 工事に起因する汚濁水は、環境保全、自然保護等について十分留意し、必要に応じて流末処理（沈砂池等）をするなど、十分に注意しなければならない。
3. 受注者は、汚濁水の流出等不測の事態が生じた場合は、監督員及び関係者に速やかに連絡し迅速に対処しなければならない。
4. 仮締切内の水替は排水計画に万全を期し常時適切に管理をしなければならない。

7-3 仮排水工の管理

1. 仮排水工は、受注者の責任において適切な維持管理をしなければならない。
2. 仮排水工の計画流量を超える場合の処置については、あらかじめ監督員と協議するものとし、緊急時に備えなければならない。

総括情報表

変更回数 適用単価地区 単価適用日	0 70 福山市 00-08.09.01(0)		
諸経費体系	9 公共(011015～)		
	当世代		前世代
諸経費工種 工事費端数区分 週休補正区分 施工地域・工事場所区分 契約保証費区分 前払支出割合区分 軽油区分 復興補正区分 I C T補正区分	21 ため池工事 01 千円未満切捨 00 補正なし 05 中山間地域 01 金銭的保証(0.04%) 00 補正なし 00 一般軽油使用 00 補正なし 00 補正なし		

本工事費

内訳表

頁0 -0002

費目・工種・施工名称など		数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
本工事費											
ため池										レベル 1	
堤体工		1			式					レベル 2	
掘削工		1			式					レベル 3	
土砂（堤体）掘削 【土質】		1			式					レベル 4	
掘削 土砂 上記以外(小規模) 標準					m3					00	
掘削 土砂 上記以外(小規模) 標準		18			m3					単第 0 -0001号表	
掘削 土砂 上記以外(小規模) 標準		370			m3					00	
掘削 土砂 上記以外(小規模) 標準										単第 0 -0001号表	
掘削 土砂 上記以外(小規模) 標準		68			m3					00	
掘削 土砂 上記以外(小規模) 標準以外		50			m3					単第 0 -0002号表	

本工事費

内訳表

頁0 -0003

費目・工種・施工名称など	数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
積込(ルーズ) 土砂 小規模(標準以外)	87	m3							00	
購入土盛土	1	式							単第 0 -0003号表 レベル 3	
k盛土 【土質】		m3							レベル 4	
路体(築堤)盛土・埋戻 施工幅員2.5m以上4.0m未満	810	m3							00	
購入土(鋼土) 透水係数1×10-5cm/sec以下	1,000	m3							単第 0 -0004号表 00	
法面整形工	1	式							単第 0 -0005号表 レベル 3	
法面整形(盛土部) 【土質】		m2							レベル 4	
法面整形 盛土部 法面締固め無し 現場制約無し レキ質土,砂及び砂質土,粘性土	360	m2							00	
作業残土処理工	1	式							単第 0 -0007号表 レベル 3	

本工事費

内訳表

頁0 -0004

費目・工種・施工名称など	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
作業残土処理			m3			レベル 4
土砂等運搬 小規模 土砂(岩塊・玉石混り土含む) DID区間無し 距離10.0km以下(7.5km超)	18		m3			00 単第 0 -0008号表
土砂等運搬 小規模 土砂(岩塊・玉石混り土含む) DID区間無し 距離10.0km以下(7.5km超)	370		m3			00 単第 0 -0008号表
土砂等運搬 小規模 土砂(岩塊・玉石混り土含む) DID区間無し 距離9.0km以下(7.0km超)	140		m3			00 単第 0 -0009号表
処分費対象額調整（直接工事費計上分） 「処分費等」の取扱いによる						
発生土（表土）処分費	18		m3			00
発生土（土砂）処分費	370		m3			00
発生土（土砂）処分費	140		m3			00
法面植生工	1		式			レベル 3

本工事費

内訳表

頁0 -0005

費目・工種・施工名称など	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
種子散布 【材料種別】			m2			レベル4
種子散布工 [規]250m2以上500m2未満	360		m2			00
舗装工						単第 0 -0010号表 レベル2
	1		式			
アスファルト舗装工						レベル3
	1		式			
下層路盤(車道・路肩部) 【路盤材種類・規格・仕上り厚】			m2			レベル4
下層路盤(車道・路肩部) 全仕上り厚200mm 1層施工 路盤材(各種)	61		m2			00
表層(車道・路肩部) 【材料種類、材料規格、舗装厚、平均幅員】			m2			単第 0 -0011号表 レベル4
表層(車道・路肩部) 平均幅員3.0m超 1層当たり平均仕上厚50mm	60		m2			00
構造物撤去工						単第 0 -0012号表 レベル2
	1		式			

本工事費

内訳表

頁0 -0006

費目・工種・施工名称など	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
構造物取壊し工						レベル 3
舗装版取壊し 【舗装種別】	1		式			レベル 4
舗装版切断 アスファルト舗装版 アスファルト舗装版厚15cm以下			m3			00
舗装版切断 アスファルト舗装版 アスファルト舗装版厚15cm以下	6		m			単第 0 -0013号表
舗装版破碎 アスファルト舗装版 障害等無し 舗装版厚15cm以下			m2			00
舗装版破碎 アスファルト舗装版 障害等無し 舗装版厚15cm以下	60		m2			単第 0 -0014号表
殻運搬・処理 【殻種別】			m3			レベル 4
殻運搬 舗装版破碎 DID区間有り 運搬距離10.5km以下(6.0km超)			m3			00
殻運搬 舗装版破碎 DID区間有り 運搬距離10.5km以下(6.0km超)	3		m3			単第 0 -0015号表
処分費 「処分費等」の取扱いによる						
アスファルト殻処分費						00
仮設工	7.1		t			レベル 2
	1		式			

本工事費

内訳表

費目・工種・施工名称など	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
工事用道路工						レベル 3
	1		式			
工事用道路盛土			m3			レベル 4
掘削 土砂 上記以外(小規模) 標準	10		m3			00 単第 0 -0001号表
掘削 土砂 上記以外(小規模) 標準	99		m3			00 単第 0 -0001号表
振動ローラ締固め W<1.0m 路体・築堤	12		m3			00 単第 0 -0016号表
大型土のう製作・設置(BH設置)	11		袋			00 単第 0 -0018号表
大型土のう撤去 設置作業半径_6m以下 設置面高さ_-3m≦H≦2m	11		袋			00 単第 0 -0020号表
敷砂利			m2			レベル 4
整地 敷均し(ルーズ) 標準(10,000m3未満) 障害無し	6		m3			00 単第 0 -0022号表

本工事費

内訳表

頁0 -0008

費目・工種・施工名称など	数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
再生クラッシャー40～0mm 小型車割増有									00	
	6		m3							
殻運搬処理			m3						レベル4	
土砂等運搬 小規模 土砂(岩塊・玉石混り土含む) DID区間無し 距離10.0km以下(7.5km超)	10		m3						00	単第 0 -0008号表
土砂等運搬 小規模 土砂(岩塊・玉石混り土含む) DID区間無し 距離10.0km以下(7.5km超)	58		m3						00	単第 0 -0008号表
土砂等運搬 小規模 土砂(岩塊・玉石混り土含む) DID区間無し 距離10.0km以下(7.5km超)	27		m3						00	単第 0 -0008号表
現場発生品支給品運搬 クレーン装置付BT2t級、2.9t吊 片道運搬距離32.5km以下 (28.0km超)	0.02		t						00	
処分費対象額調整 (直接工事費計上分) 「処分費等」の取扱いによる										
発生土 (表土) 処分費	10		m3						00	
発生土 (土砂) 処分費	58		m3						00	

本工事費

内訳表

頁0 -0009

[illegible]

本工事費

内訳表

頁0 -0010

	費目・工種・施工名称など	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
共通仮設費計							
純工事費							
現場管理費							
工事原価							
一般管理費率分							
契約保証費							
一般管理費計							
工事価格計							
消費税相当額計							

本工事費

内訳表

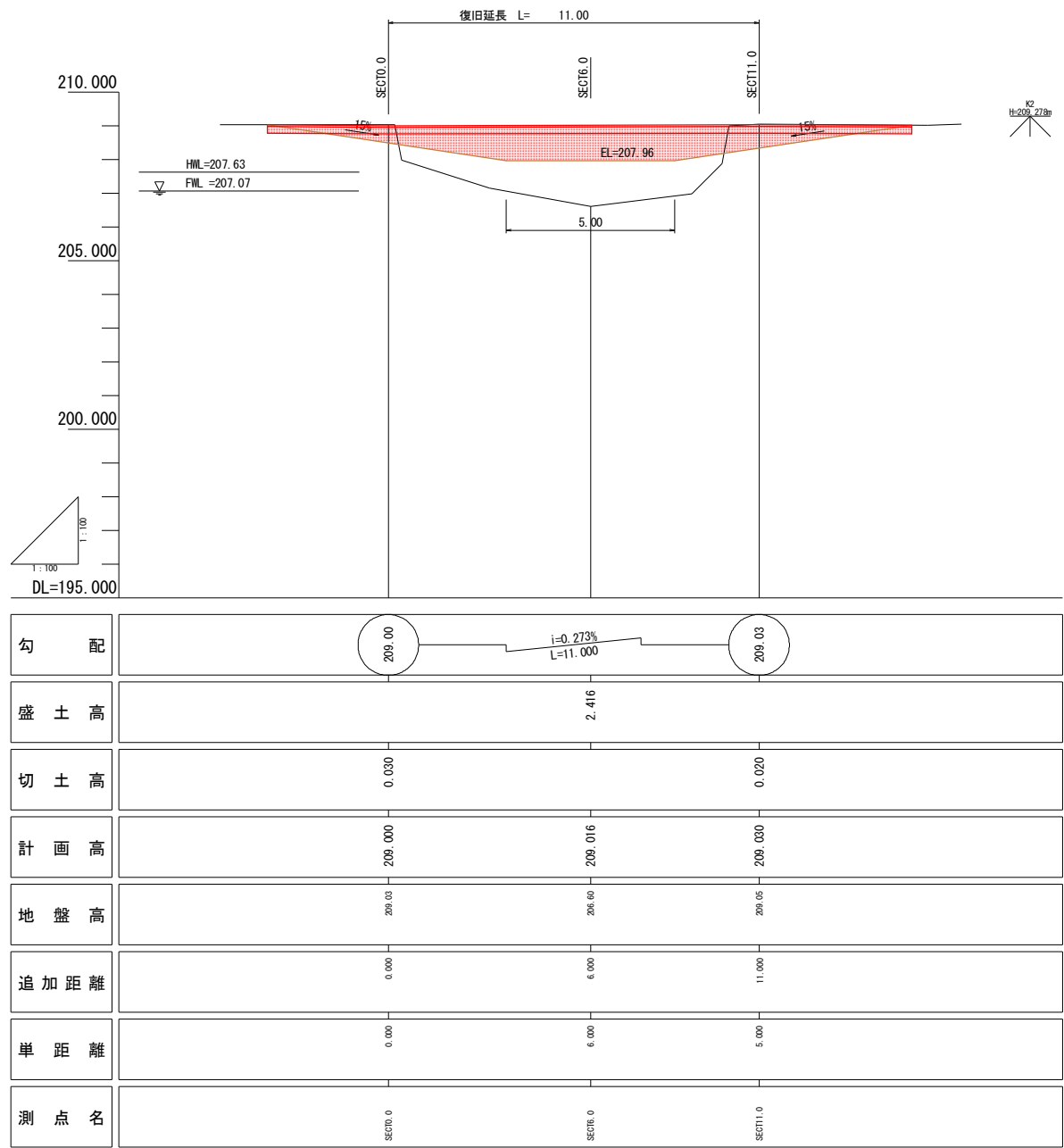
頁0 -0011

[illegible]



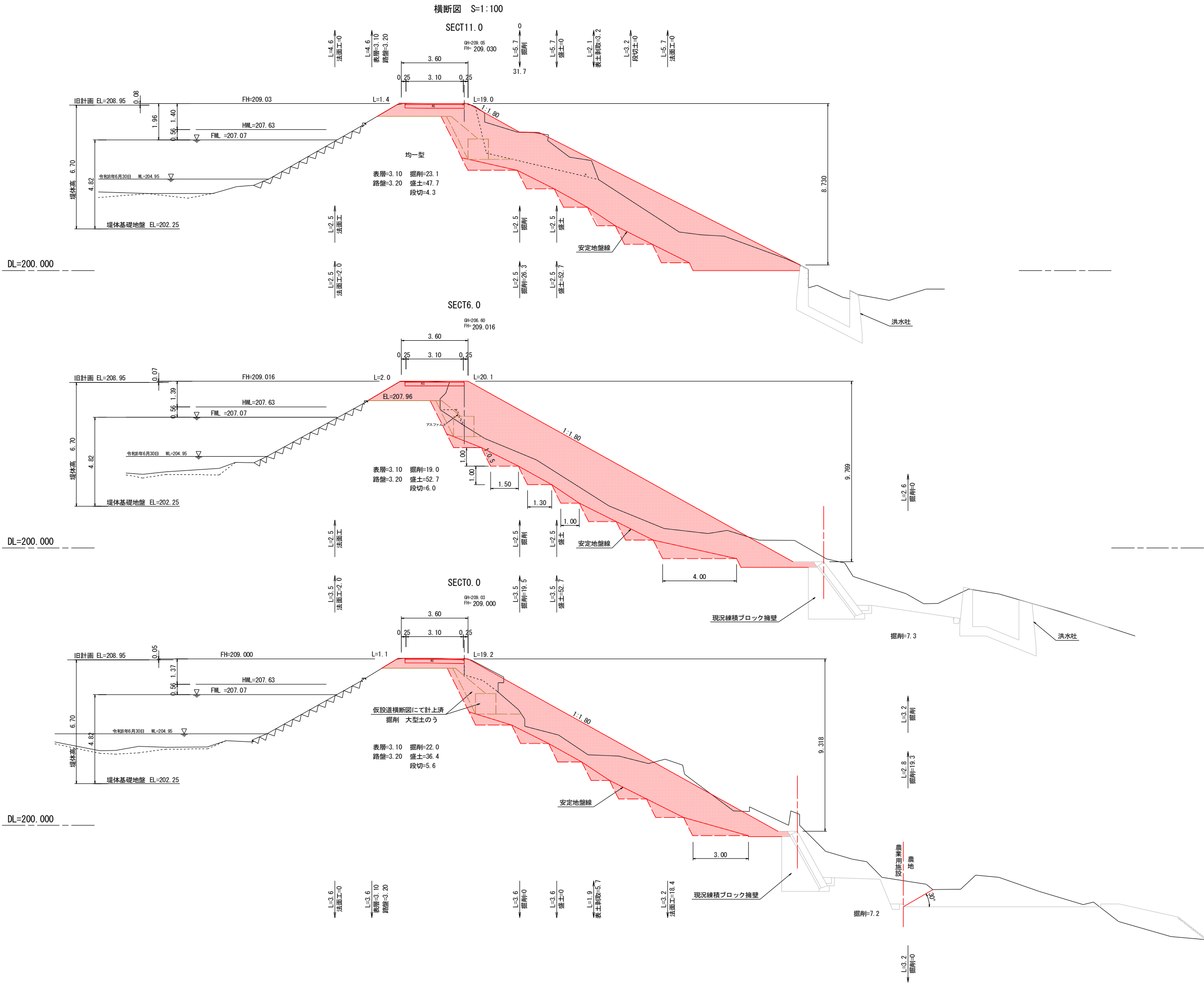
夫婦岩池		207	
工事名	夫婦岩池災害復旧工事		
図面名	平 面 図		
作成年月日	令和8年 9月		
縮尺	1:250	図面番号	2/6
会社名			
事業者名	福 山 市		

縦断面図 H=1:100, V=1:100

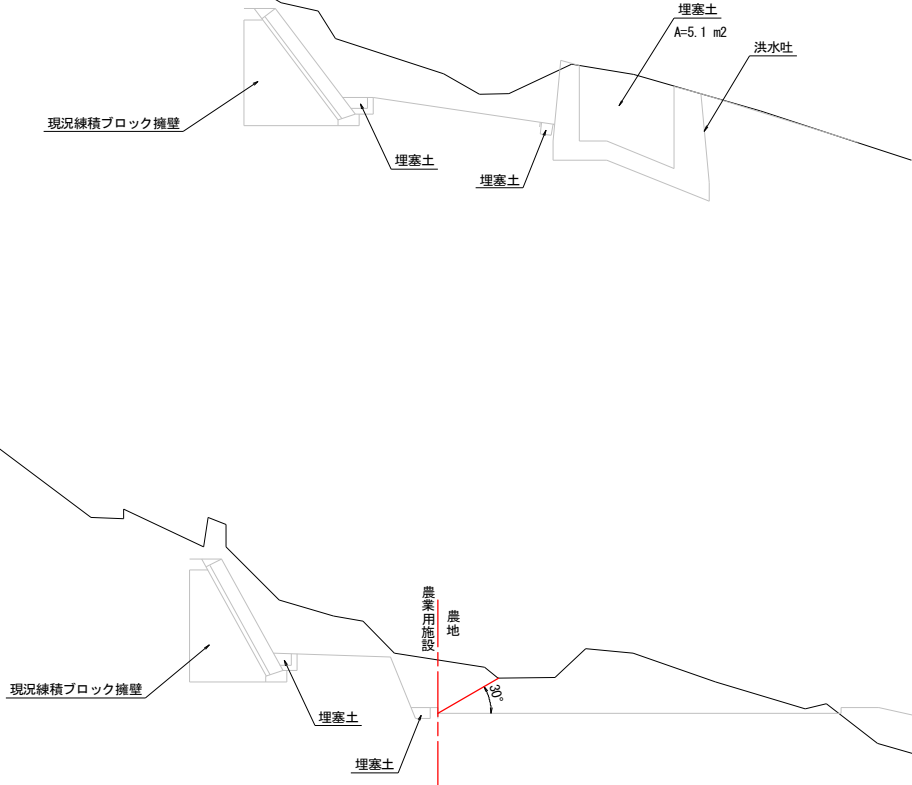


夫婦岩池

工事名	夫婦岩池災害復旧工事		
図面名	縦断面図		
作成年月日	令和8年 9月		
縮尺	H=1:100 V=1:100	図面番号	3/6
会社名			
事業者名	福山市		



夫婦岩池				207
工事名	夫婦岩池災害復旧工事			
図面名	横 断 図			
作成年月日	令和8年 9月			
縮尺	1:100	図面番号	4/6	
会社名				
事業者名	福 山 市			



夫婦岩池				207
工事名	夫婦岩池災害復旧工事			
図面名	仮設道路横断図			
作成年月日	令和8年 9月			
縮尺	1:100	図面番号	6/6	
会社名				
事業者名	福 山 市			

参 考 图 书

施工単価表

掘削
土砂 上記以外(小規模)
機械構成比: 26.01%

SPK25040001

単第 0 -0001号表

標準
62.89%

労務構成比:

材料構成比: 11.10%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価: 1,241.0000

1
m3 当り

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
バックホウ(クローラ型) 標準型・排2 山積0.28/平積0.2m3	26.01%		バックホウ(クローラ型) 標準型・排2 山積0.28/平積0.2m3		MTPC00062 MTPT00062
運転手(特殊)	62.89%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	11.10%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 E=7 土砂 標準			B=5 上記以外(小規模)		

施工単価表

掘削
土砂 上記以外(小規模)
機械構成比: 20.13%
SPK25040001
標準以外
71.97%
労務構成比:
材料構成比: 7.90%
市場単価構成比: 0.00%
単第 0 -0002号表
標準単価: 1
m3 当り
2,678.7000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
小型バックホウ(クローラ型) 標準型・排2 山積0.13/平積0.10m3	20.13%		小型バックホウ(クローラ型) 標準型・排2 山積0.13/平積0.10m3		MTPC00077 MTPT00077
運転手(特殊)	71.97%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	7.90%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 E=8 土砂 標準以外			B=5 上記以外(小規模)		

施工単価表

積込(ルーズ)
土砂
機械構成比: 20.13% 労務構成比: 71.97% 材料構成比: 7.90% 市場単価構成比: 0.00%

SPK25040007
小規模(標準以外)

単第 0 -0003号表
標準単価: 1,827.3000
1 m3 当り

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
小型バックホウ(クローラ型) 標準型・排2 山積0.13/平積0.10m3	20.13%		小型バックホウ(クローラ型) 標準型・排2 山積0.13/平積0.10m3		MTPC00077 MTPT00077
運転手(特殊)	71.97%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	7.90%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 土砂			B=5 小規模(標準以外)		

施工単価表

頁0 -0004

路体(築堤)盛土・埋戻
施工幅員2.5m以上4.0m未満
機械構成比: 15.30%

SPKN2504004

単第 0 -0004号表

1
標準単価: m3 当り
857.6000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
<賃>後方超小旋回バックホウ(クローラ型) 山積0.28m3(平積0.2) 排出ガス対策型(第1,2,3次基準値)低騒音	8.01%		バックホウ(クローラ型) [後方超小旋回型] 山積0.28m3(平積0.2m3)		KTPC00054 KTPT00054
<賃>振動ローラ(搭乗・コンバインド式) 質量3～4t 排出ガス対策型(第2,3次基準値)低騒音	7.29%		振動ローラ(舗装用) [搭乗式コンバインド型] 質量3～4t		KTPC00009 KTPT00009
運転手(特殊)	67.28%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
普通作業員	8.88%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
軽油 パトロール給油,2～4KL積載車給油	8.54%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 施工幅員2.5m以上4.0m未満					

施工単価表

頁0 -0005

購入土 (鋼土)

透水係数 $1 \times 10^{-5} \text{cm/sec}$ 以下

单第 0 -0005号表

1 m3 当り

[illegible]

施工単価表

頁0 -0006

土砂等運搬
小規模 土砂(岩塊・玉石混り土含む)
機械構成比: 26.52% 労務構成比: 61.90% 材料構成比: 11.58% 市場単価構成比: 0.00%

SPK25040002
DID区間有り 距離27.0km以下(17.0km超)

単第 0 -0006号表
1
標準単価: 5,719.5000
m3 当り

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 4t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)	26.52%		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 4t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)		MTPC00017T1 MTPT00017T1
運転手(一般)	61.90%		運転手(一般)		RTPC00007 RTPT00007
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	11.58%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=2 小規模 C=1 土砂(岩塊・玉石混り土含む) F=56 距離27.0km以下(17.0km超)			B=5 バックホウ山積0.28m3(平積0.2m3) D=2 DID区間有り		

施工単価表

頁0 -0007

法面整形
盛土部 法面締固め無し 現場制約無し
機械構成比: 11.87% 労務構成比: 75.95% 材料構成比: 12.18% 市場単価構成比: 0.00%

SPK25040025
レキ質土,砂及び砂質土,粘性土

単第 0 -0007号表
1
標準単価: 453.5800
m2 当り

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
<賃>バックホウ(クローラ型) 山積0.8m3(平積0.6) 排1〜3,2011,2014	11.87%		バックホウ クローラ型 山積0.8m3(平積0.6m3)		KTPC00018 KTPT00018
普通作業員	33.62%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
運転手(特殊)	28.67%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
土木一般世話役	13.66%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
軽油 パトロール給油,2〜4KL積載車給油	12.18%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 盛土部 C=2 現場制約無し E=1 -(全ての費用)			B=2 法面締固め無し D=2 レキ質土,砂及び砂質土,粘性土		

施工単価表

頁0 -0008

土砂等運搬
小規模 土砂(岩塊・玉石混り土含む)
機械構成比: 26.52% 労務構成比: 61.90% 材料構成比: 11.58% 市場単価構成比: 0.00%

SPK25040002
DID区間無し 距離10.0km以下(7.5km超)

単第 0 -0008号表
1
標準単価: 3,050.4000
m3 当り

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 4t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)	26.52%		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 4t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)		MTPC00017T1 MTPT00017T1
運転手(一般)	61.90%		運転手(一般)		RTPC00007 RTPT00007
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	11.58%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=2 小規模 C=1 土砂(岩塊・玉石混り土含む) F=39 距離10.0km以下(7.5km超)			B=5 バックホウ山積0.28m3(平積0.2m3) D=1 DID区間無し		

施工単価表

頁0 -0009

土砂等運搬
小規模 土砂(岩塊・玉石混り土含む)
機械構成比: 20.25% 労務構成比: 71.03% 材料構成比: 8.72% 市場単価構成比: 0.00%

SPK25040002
DID区間無し 距離9.0km以下(7.0km超)

単第 0 -0009号表
標準単価: 1 m3 当り 4,984.0000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 2t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)	20.25%		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 2t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)		MTPC00016T1 MTPT00016T1
運転手(一般)	71.03%		運転手(一般)		RTPC00007 RTPT00007
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	8.72%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=2 小規模 C=1 土砂(岩塊・玉石混り土含む) F=37 距離9.0km以下(7.0km超)			B=6 バックホウ山積0.13m3(平積0.1m3) D=1 DID区間無し		

单第 0 -0010号表

頁0 -0010

[規]250m²以上500m²未満

1 m2 当り

[illegible]

施工単価表

頁0 -0011

下層路盤(車道・路肩部)

SPK25040235

単第 0 -0011号表

全仕上り厚200mm 1層施工

路盤材(各種)

1

m2 当り

機械構成比: 5.72%

労務構成比:

18.33%

材料構成比:

75.95%

市場単価構成比:

0.00%

標準単価:

1,289.3000

代表機材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
モータグレーダ 土工用・排2014 ブレード幅3.1m	3.95%		モータグレーダ 土工用・排2014 ブレード幅3.1m		MTPC00176 MTPT00176
<賃>ロードローラ(マカダム) 質量10t 排出ガス対策型(第1,2次基準値)	0.49%		ロードローラ [マカダム]質量10t～12t		KTPC00047 KTPT00047
<賃>タイヤローラ 質量13～14t 排出ガス対策型(2014年規制)普通・超低騒音	0.49%		<賃>タイヤローラ 質量13～14t		KTPC00074 KTPT00074
その他(機械)			その他(機械)		EK009
運転手(特殊)	8.06%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
普通作業員	2.95%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
特殊作業員	2.63%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
土木一般世話役	2.16%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009

施工単価表

頁0 -0012

下層路盤(車道・路肩部)
全仕上り厚200mm 1層施工
機械構成比: 5.72% 労務構成比: 18.33% 材料構成比: 75.95% 市場単価構成比: 0.00%

SPK25040235
路盤材(各種)

単第 0 -0011号表
1
標準単価: 1,289.3000
m2 当り

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
再生クラッシャラン40～0mm 小型車割増有	74.21%		クラッシャラン 40～0mm [標準数量]全仕上り厚150mm		F0000000007 TTPT00346
軽油 パトロール給油,2～4KL積載車給油	1.50%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
その他(材料)			その他(材料)		EZ009
積算単価			積算単価		E9999
A=200 全仕上り厚(mm) C=7 【F】路盤材(m3)			B=5 路盤材(各種) D=1 -(全ての費用)		
【路盤材単価】 全仕上り厚(mm)/1000*路盤材単価(円) 全仕上り厚(mm):200.000(mm)					

施工単価表

頁0 -0013

表層(車道・路肩部)

SPK25040244

単第 0 -0012号表

平均幅員3.0m超

1層当り平均仕上厚50mm

1

m2 当り

機械構成比: 1.38%

労務構成比: 10.17%

材料構成比: 88.45%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

1,808.7000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
<賃>アスファルトフィニッシャ(ホイール型) 舗装幅2.3～6.0m 排出ガス対策型(第1,2次基準値)低騒音	0.88%		アスファルトフィニッシャ [ホイール型] 舗装幅2.3～6.0m		KTPC00060 KTPT00060
<賃>タイヤローラ 質量8～20t 排出ガス対策型(第1,2次基準値)低騒音	0.14%		タイヤローラ 質量8～20t		KTPC00007 KTPT00007
<賃>ロードローラ(マカダム) 質量10t 排出ガス対策型(第1,2次基準値)	0.13%		ロードローラ [マカダム]質量10t～12t		KTPC00047 KTPT00047
その他(機械)			その他(機械)		EK009
普通作業員	3.66%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
運転手(特殊)	2.06%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
特殊作業員	2.03%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
土木一般世話役	0.73%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009

施工単価表

頁0 -0014

表層(車道・路肩部)
平均幅員3.0m超
機械構成比: 1.38% 労務構成比: 10.17% 材料構成比: 88.45% 市場単価構成比: 0.00%

SPK25040244
1層当り平均仕上厚50mm

単第 0 -0012号表

1
標準単価:

m2 当り
1,808.7000

代表機労材規格(積算地区)		構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)		単価(東京地区)	備考
再生加熱アスファルト混合物 再生密粒度(20)		80.70%		密粒度As混合物(20) [標準数量]平均仕上り厚50mm			TTPCD0038 TTPT00284
アスファルト乳剤(JISK2208) アスファルト乳剤(浸透用) PK-3プライムコート用		7.17%		アスファルト乳剤(JISK2208) アスファルト乳剤(浸透用) PK-3プライムコート用			TTPC00026 TTPT00026
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油		0.49%		軽油パトロール給油			TTPC00013 TTPT00013
その他(材料)				その他(材料)			EZ009
積算単価				積算単価			E9999
A=4 C=6 G=2 I=1	平均幅員3.0m超 再生密粒度アスファルト混合物(20) 小型車割増有 -(全ての費用)			B=50 E=2 H=1	1層当り平均仕上り厚(mm) PK-3 -		
【アスファルト混合物単価】 1層当り平均仕上り厚(mm)/1000*(アスファルト混合物単価(円)+各種割増合計値) 1層当り平均仕上り厚(mm):50.000(mm)							

施工単価表

頁0 -0015

舗装版切断
アスファルト舗装版
機械構成比: 15.05% 労務構成比: 58.43% 材料構成比: 26.52% 市場単価構成比: 0.00%

SPK25040307
アスファルト舗装版厚15cm以下

単第 0 -0013号表
標準単価: 1 m 当り 700.4400

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
コンクリートカッタ バキューム式(超低騒音型)・湿式 切削深20cm級ブレード径φ56cm	10.24%		コンクリートカッタ バキューム式(超低騒音型)・湿式 切削深20cm級ブレード径φ56cm		MTPC00164 MTPT00164
その他(機械)			その他(機械)		EK009
特殊作業員	19.96%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
土木一般世話役	10.88%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
普通作業員	8.92%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
その他(労務)			その他(労務)		ER009
コンクリートカッタブレード 自走式切断機用 径45cm(18インチ)	22.39%		コンクリートカッタブレード 径18インチ		TTPC00394 TTPT00394
ガソリン,レギュラー スタンド渡し,スタンド給油	2.81%		ガソリンレギュラースタンド		TTPC00014 TTPT00014
その他(材料)			その他(材料)		EZ009

施工単価表

頁0 -0016

鋪裝版切断

SPK25040307

单第 0 -0013号表

アスファルト舗装版

アスファルト舗装版厚15cm以下

1

m 当り

機械構成比: 15.05%

勞務構成比：

58.43%

材料構成比: 26.52%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価：

700.4400

[illegible]

施工単価表

頁0 -0017

舗装版破碎
アスファルト舗装版
機械構成比: 12.85% 労務構成比: 81.24% 材料構成比: 5.91% 市場単価構成比: 0.00% 標準単価: 217.3700

SPK25040306 障害等無し 舗装版厚15cm以下

単第 0 -0014号表 1 m2 当り

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
<賃>後方超小旋回バックホウ(クローラ型) 山積0.45m3(平積0.35m3) 排出ガス対策型(第1,2,3次基準値)低騒音	12.85%		バックホウ(クローラ型) [後方超小旋回型] 山積0.45m3(平積0.35m3)		KTPC00066 KTPT00066
土木一般世話役	29.54%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
運転手(特殊)	27.52%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
普通作業員	24.18%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	5.91%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 アスファルト舗装版 C=1 騒音振動対策不要 F=1 積込作業有り			B=1 障害等無し D=1 舗装版厚15cm以下 G=1 -(全ての費用)		

施工単価表

頁0 -0018

殻運搬
舗装版破碎
機械構成比: 44.05%

SPK25040155
DID区間有り 運搬距離10.5km以下(6.0km超)
労務構成比: 39.87%

単第 0 -0015号表
材料構成比: 16.08%

標準単価: 1
m3 当り
3,615.9000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)	44.05%		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)		MTPC00018T1 MTPT00018T1
運転手(一般)	39.87%		運転手(一般)		RTPC00007 RTPT00007
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	16.08%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=3 舗装版破碎 C=2 DID区間有り E=1 -(全ての費用)			B=3 機械積込(騒音対策不要,舗装版厚15cm以下) D=42 運搬距離10.5km以下(6.0km超)		

振動ローラ締固め

W<1.0m

路体・築堤

单第 0 -0016号表

頁0 -0019

100

m3

当り

[illegible]

施工単価表

单第 0 -0017号表

頁0 -0020

機-31_振動ローラ運転 ハンドガイド式 0.8~1.1t

1 日 当り

[illegible]

施 工 単 価 表

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.294	人			1*0.294
特殊作業員	0.294	人			1*0.294
普通作業員	0.294	人			1*0.294
耐候性大型土のう(2.0t用) 丸型,径110cm×長110cm 短期仮設対応(1年),令和 5 年改定基準適合品	10.000	枚			
機-28_バックホウ運転(賃料) C付2.9t吊_山積0.45m3_後方超小型旋回型	0.294	日			単第 0-0019号表
諸雑費	1	%			
合計	10	袋			
単位当り	1	袋			
A=4 耐候性(短期)大型土のう(R5改定基準適合品)			B=1 土砂の計上なし		

施工単価表

頁0 -0022

機-28_バックホウ運転(賃料)
C付2.9t吊_山積0.45m3_後方超小型旋回型

单第 0 -0019号表

1 日 当り

[illegible]

施 工 単 価 表

頁0 -0023

大型土のう撤去
設置作業半径_6m以下

設置面高さ_ -3m≤H≤2m

単第 0 -0020号表

10

袋 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.087	人			
特殊作業員	0.087	人			
機-28_バックホウ運転(賃料) クレーン付2.9t吊_山積0.8m3	0.087	日			単第 0-0021号表
諸雑費	0.4	%			
合計	10	袋			
単位当り	1	袋			
A=1 設置作業半径_6m以下			B=1 設置面高さ_ -3m≤H≤2m		

单第 0 -0021号表

頁0 -0024

クレーン付2.9t吊_山積0.8m3

1 目 当 り

[illegible]

施工単価表

頁0 -0025

整地
敷均し(ルーズ)
機械構成比: 22.80% 労務構成比: 53.11% 標準(10,000m3未満) 障害無し

SPK25040003

単第 0 -0022号表

1
標準単価: 126.7900

m3 当り

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
<賃>バックハウ(クローラ型) 山積0.8m3(平積0.6) 排1~3,2011,2014	22.80%		バックハウ クローラ型 山積0.8m3(平積0.6m3)		KTPC00018 KTPT00018
運転手(特殊)	53.11%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	24.09%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=2 C=1 敷均し(ルーズ) 障害無し			B=1 標準(10,000m3未満)		

令和 8年度

数 量 計 算 書

福山市 金江町 地内

福 山 市

夫 婦 岩 池 数 量 総 括 表

工 事 名	0					事業区分		
						工事区分		
レベル1 工事区分	レベル2 工種	レベル3 種別	レベル4 細別	レベル5 規 格	単位	数量	設計数量	摘 要
ため池直接工事費	土 工				式			
		掘削工（堤体工）			式			
			表土剥取	処分土	m ³	17.5	18	
			土砂掘削（堤体側）	砂質土	m ³	369.0	370	
			段切土	切土及び流用盛土（鋼土）	m ³	67.5	68	
			土砂掘削（通路側）	砂質土	m ³	100.7		
			掘削（水路内撤去土）	砂質土	m ³	35.5		
			控除	応急撤去部(仮置) 砂質土	m ³	-86.6		
			合計	砂質土 (通路側、水路内撤去土)	m ³	49.6	50	
			積込（応急撤去部）	砂質土	m ³	86.6	87	
		盛 土（堤体工）			式			
			盛土	鋼土	m ³	746.4		
			盛土（段切）部	鋼土	m ³	67.5		
			合計	鋼土（盛土+段切部）	m ³	813.9	810	
			購入土	鋼土 運搬締固め土量1.33	m ³	1001.7	1000	
		整形仕上げ工			式			
			盛土法面整形	盛土部	m ²	355.0	360	

夫 婦 岩 池 数 量 総 括 表

工 事 名	0					事業区分		
						工事区分		
レベル1 工事区分	レベル2 工種	レベル3 種別	レベル4 細別	レベル5 規 格	単位	数量	設計数量	摘 要
		残土処理工			式			
			残土処理	運搬（表土）	m ³	17.5	18	
			残土処理	運搬（掘削土）堤体部	m ³	369.0	370	
			残土処理	運搬（掘削土）通路部+水路部	m ³	136.2	140	
	法面保護工				式			
		植生工（堤体工）	種子散布		m ²	355.0	360	
	復旧工				式			
		アスファルト舗装復旧			式			
			路盤	クラッシャランRC-40	m ²	61.4	61	
			表層	再生密粒度20 t =5cm	m ²	59.6	60	
	仮設工				式			
		掘削工			式			
			表土剥取	表土	m ³	9.5	10	
			土砂掘削	砂質土	m ³	81.0		
			土砂掘削（盛土部）	砂質土	m ³	12.3		
			土砂掘削（敷碎石）	砂質土	m ³	5.8		
			合計	砂質土 （土砂掘削+盛土部+敷碎石）	m ³	99.1	99	

夫 婦 岩 池 数 量 総 括 表

工 事 名	0					事業区分		
						工事区分		
レベル1 工事区分	レベル2 工種	レベル3 種別	レベル4 細別	レベル5 規 格	単位	数量	設計数量	摘 要
		盛 土			式			
		仮設盛土		砂質土	m ³	12.3	12	
		残土処理工			式			
			残土処理	表土	m ³	9.5	10	
			残土処理	砂質土	m ³	58.1	58	
			残土処理	大型土のう+盛土部+敷碎石	m ³	27.3	27	
			現場発生品運搬	耐候性大型土のう	t	0.023	0.02	
			廃プラスチック処分	耐候性大型土のう	kg	23.1	23	
		構造物取壊し工			式			
			舗装版切断	アスファルト t=5cm	m	6.2	6	
			舗装版取壊し	アスファルト t=5cm	m ²	59.6	60	
			殻運搬	アスファルト殻	m ³	3.0	3.0	
			殻処理	アスファルト殻	t	7.1	7.1	
		土嚢工			式			
			大型土嚢 制作・据付・撤去	直径1.1m×高さ1.1m 容積1m3 バックホウ施工	袋	11	11	
		仮設道路工			式			
			整地	クラッシュランRC-40	m ³	5.8	6	

[illegible]

土工収支計算書

仮設道発生土

種 別	規格	単位	発生土量 (地山)
土工 仮設道			
仮設表土剥取	表土	m ³	9.5
仮設道掘削	砂質土	m ³	81.0
仮設盛土掘削	砂質土	m ³	12.3
仮設道掘削		m ³	5.8
合計			18.1
処分土(表土) = 仮設表土剥取 =			9.5
処分土 = 仮設掘削 - 必要土量 =			58.1
処分土 = 大型土のう + 仮設盛土掘削 + 仮設道掘削 =			27.3

堤体発生土

種 別	規格	単位	発生土量 (地山)
土工			
堤体表土剥取	表土	m ³	17.5
堤体掘削(堤体側)	砂質土	m ³	369.0
堤体掘削(通路側)	砂質土	m ³	100.7
水路内撤去土 掘削	砂質土	m ³	35.5
応急撤去部(仮置)	砂質土	m ³	-86.6
		計	49.6
応急撤去部(仮置)積込	砂質土	m ³	86.6
段切土(流用)	鋼土	m ³	67.5
搬出土			m ³
処分土(表土) = 堤体表土剥取 =			17.5
処分土(鋼土) = 堤体掘削(堤体側) =			369.0
処分土 = (通路側+水路内撤去土-応急撤去部(仮置)+積込) =			136.2

仮設道必要土

種 別	規格	単位	必要土量 (盛土)	変化率	必要土量 (地山)
土工					
仮設道盛土		m ³	12.3	×1/0.9=	13.7
大型土のう		m ³	11.0	×1/1.2=	9.2
					必要土量
				合計	22.9

堤体必要土

種 別	規格	単位	必要土量 (盛土)	変化率	必要土量 (地山)
土工					
堤体盛土	鋼土(購入土)	m ³	746.4		
段切土部不足盛土	流用	m ³	67.5	=0.9 ×	75.0
	不足量	75.0	-	67.5 =	7.5
購入土(鋼土)					
締固め(L/C) 土量 = (堤体盛土量 + 不足地山量 × 0.9) × 1.33 =					m ³ 1001.7
			堤体盛土量		
		合計	813.9		

計第 表 横断図より 掘 削 計 算 表											
測 点	距 離	表土剥取									摘 要
		断面	平 均	立 積		平 均	立 積		平 均	立 積	
	-	5.7	-	-							
	1.9	5.7	5.70	10.8							
SECT 0.0											
SECT 6.0											
SECT 11.0											
	-	3.2	-	-							
	2.1	3.2	3.20	6.7							
				m3							
計	4.0			17.5							

計 算 表											
計第	表	横断図より			掘 削						
測 点	距 離	掘削(砂質土)堤体側			掘削(砂質土)通路側						摘 要
		断面	平 均	立 積		平 均	立 積		平 均	立 積	
堤体側	-	0.0	-	-							
SECT 0.0	3.6	22.0	11.00	39.6							
	3.5	19.5	20.75	72.6							
SECT 6.0	2.5	19.0	19.25	48.1							
	2.5	26.3	22.65	56.6							
SECT 11.0	2.5	23.1	24.70	61.8							
	-	31.7	-	-							
	5.7	0.0	15.85	90.3							
通路側	-				0.0	-	-				
SECT 0.0	3.2				7.2	3.60	11.5				
	2.8				19.3	13.25	37.1				
SECT 6.0	3.2				7.3	13.30	42.6				
	2.6				0.0	3.65	9.5				
				m3			m3				
計	32.1			369.0			100.7				

計第 表		横断図より			掘 削			計 算 表			
測 点	距 離	段切土(切土・堤体盛土流用)									摘 要
		断面	平 均	立 積		平 均	立 積		平 均	立 積	
SECT 0.0	-	5.6	-	-							
SECT 6.0	6.0	6.0	5.80	34.8							
SECT 11.0	5.0	4.3	5.15	25.8							
	3.2	0.0	2.15	6.9							

計第 表		平面図より			水路内撤去土			計 算 表			
測 点	距 離	掘削(砂質土)				平 均	立 積		平 均	立 積	摘 要
		断面	平 均	立 積							
水路		0.2	-		断面B0.50×H0.50						
	12.0	0.2	0.20	2.4	断面B0.50×H0.50						
摺付水路	2.9	1.0	0.60	1.7	断面B1.00×H1.00						
減勢工	5.8	2.6	1.80	10.4	断面B1.20×H2.20						
	3.5	2.6	2.60	9.1	断面B1.20×H2.20						
放水路	2.1	1.4	2.00	4.2	断面B1.20×H1.15						
	1.4	1.4	1.40	2.0	断面B1.20×H1.15						
	3.0	0.0	0.70	2.1	断面B1.20×H1.15						
L型側溝	-	0.1	-	-	断面B0.30×H0.30						
(腰積下側)	22.5	0.1	0.10	2.3	断面B0.30×H0.30						
	-	0.1	-	-	断面B0.30×H0.30						
(道路下側)	13.0	0.1	0.10	1.3	断面B0.30×H0.30						
				m3							
計	66.2			35.5							

[illegible]

計第 表 横断図より 盛土(鋼土) 計 算 表											
測 点	距 離	盛土(鋼土)									摘 要
		断面	平 均	立 積		平 均	立 積		平 均	立 積	
	-	0.0	-	-							
SECT 0.0	3.6	36.4	18.20	65.5							
	3.5	52.7	44.55	155.9							
SECT 6.0	2.5	52.7	52.70	131.8							
	2.5	52.7	52.70	131.8							
SECT 11.0	2.5	47.7	50.20	125.5							
	5.7	0.0	23.85	135.9							
				m3							
計	20.3			746.4							

計第 表		横断図より 法面保護工・整形仕上げ工						計 算 表			
測 点	距 離	法面保護工・整形仕上げ工			幅	平 均	平 積				摘 要
		幅	平 均	平 積						平 積	
法面工左側	-	0.0	-	-							
SECT 0.0	3.6	1.1	0.55	2.0							
	3.5	2.0	1.55	5.4							
SECT 6.0	2.5	2.0	2.00	5.0							
	2.5	2.0	2.00	5.0							
SECT 11.0	2.5	1.4	1.70	4.3							
	4.6	0.0	0.70	3.2							
法面工右側	-	18.4	-	-							
SECT 0.0	3.2	19.2	18.80	60.2							
SECT 6.0	6.0	20.1	19.65	117.9							
SECT 11.0	5.0	19.0	19.55	97.8							
	5.7	0.0	9.50	54.2							

舗装工	数 量 集 計 表
-----	-----------

舗装工	数 量 集 計 表
-----	-----------

[illegible]

計第 表		横断図より 舗装工						計 算 表			
測 点	距 離	路盤 RC-40			表層 再生密粒度20						摘 要
		幅	平 均	平 積	幅	平 均	平 積			平 積	
	-	3.20	-	-	3.10	-	-				
SECT 0.0	3.6	3.20	3.20	11.5	3.10	3.10	11.2				
SECT 6.0	6.0	3.20	3.20	19.2	3.10	3.10	18.6				
SECT 11.0	5.0	3.20	3.20	16.0	3.10	3.10	15.5				
	4.6	3.20	3.20	14.7	3.10	3.10	14.3				
				m2			m2				
計				61.4			59.6				

計第	表	横断図より	仮設道 表土剥取					計 算 表			
測 点	距 離	表土剥取				平 均	立 積		平 均	立 積	摘 要
		断面	平 均	立 積							
左側	-	0.0	-	-							
SECT 0.0	3.6	0.3	0.15	0.5							
	3.5	0.6	0.45	1.6							
SECT 6.0	2.5	0.6	0.60	1.5							
	2.5	0.6	0.60	1.5							
SECT 11.0	2.5	0.4	0.50	1.3							
	4.6	0.0	0.20	0.9							
右側	-	0.0	-	-							
	3.6	0.7	0.35	1.3							
SECT 0.0											
SECT 6.0											
SECT 11.0											
	-	0.4	-	-							
	4.6	0.0	0.20	0.9							
				m3							
計	27.4			9.5							

計第 表		仮設道横断図より			仮設道 掘 削			計 算 表			
測 点	距 離	掘削(砂質土)									摘 要
		断面	平 均	立 積		平 均	立 積		平 均	立 積	
	-	0.7	-	-							
	3.6	6.7	3.70	13.3							
SECT 0	-	5.7	-	-							
	3.5	4.3	5.00	17.5							
SECT 6.0	2.5	4.3	4.30	10.8							
	2.5	4.3	4.30	10.8							
SECT 11.0	2.5	6.1	5.20	13.0							
	4.6	0.7	3.40	15.6							
				m3							
計	19.2			81.0							

計第表		仮設道横断図より			仮設道盛土			計算表			
測点	距離	盛土・盛土撤去									摘要
		断面	平均	立積		平均	立積		平均	立積	
	-	0.0	-	-							
SECT 0.0	2.6	1.2	0.60	1.6							
	3.5	0.8	1.00	3.5							
SECT 6.0	2.5	0.8	0.80	2.0							
	2.5	0.8	0.80	2.0							
SECT 11.0	2.5	1.1	0.95	2.4							
	1.4	0.0	0.55	0.8							
				m3							
計	15.0			12.3							

数量集計表

[illegible]

計第 表 仮設道構造物取壊し工			数 量 計 算 表		
舗装版切断（アスファルト）					
位 置	延長・ヶ所	摘 要	位 置	延長・ヶ所	摘 要
横断図より					
SECT0-3.6	3.1	仮設工横断図より			
SECT11.0+4.6	3.1	仮設工横断図より			
計	6.2 m				

計第 表		仮設道取壊し工			数 量 計 算 表						
測 点	距 離	アスファルト舗装取壊し									摘 要
		幅	平 均	平 積		平 均	平 積		平 均	平 積	
左側	-	3.1	-	-							
SECT 0.0	3.6	3.1	3.10	11.2							
SECT 6.0	6.0	3.1	3.10	18.6							
SECT 11.0	5.0	3.1	3.10	15.5							
	4.6	3.1	3.10	14.3							

計第 表		仮設道 整地			数 量 計 算 表						
測 点	距 離	整地 t=10cm									摘 要
			平 均	平 積		平 均	立 積		平 均	平 積	
	-	3.0	-	-							
SECT 0.0	3.6	3.0	3.00	10.8							
SECT 6.0	6.0	3.0	3.00	18.0							
SECT 11.0	5.0	3.0	3.00	15.0							
	4.6	3.0	3.00	13.8							

[illegible]